

## わが国の幼児の遊びに関する歴史の変遷（2）

～近世（江戸時代）～

○峯 克政

柴崎正行

（ひさみ幼稚園）

（東京家政大学）

## 1. 研究目的

当研究では、古代から現代に至る幼児の遊びの実態を歴史的に振り返ることで、「幼児がどのように遊んできたのか」「現代にある幼児の遊びがいつ頃から形成されたのか」ということを明らかにしていく。そして、それを手がかりとし、「現在・未来の子どもたちに必要な遊び環境とは何か」ということを模索していくことを目的とする。ここでは、前回の発表（1）〈古代・中世〉に引き続き、近世（江戸時代）の子どもたちの遊びに着目して、資料に基づいて考察する。

## 2. 研究方法

子どもの遊びの実態を知る手がかりを、絵画史料を中心に追求していく。分析対象は、生活や文化・風俗・名所などが描かれた図絵（浮世絵を含む）の中の子どもの遊び場面とする。方法は、遊びの要素となる「遊び空間」「遊び仲間」「遊び道具」の3点に焦点を当てて分析する。

遊び場面の抽出数は、476（町人層424、農漁村民層52）である。尚、幼児の遊びだけでなく、子ども全体の遊びを分析対象とした。なお、本研究では便宜上、子どもの年齢区分は、背・髪型・服装などを参考にして、赤子を「乳児」、乳児期を過ぎてから6歳位までを「幼児」、7歳から12歳位までを「児童」、13歳から15歳位までを「少年」として区分していく。

なお今回は、特権的な支配階級の武家の子どもたちの遊び場面の史料が得られなかったため、その様子を抽出できなかったため、割愛する。

## 3. 結果と考察

## I. 遊び空間 &lt;表1参照&gt;

## ①町人層の子どもたち

家の敷地内での遊びが、30%を占めており、室内や庭を貴重な遊びスペースとしていたことがわかる。戸外での遊びは、66%もあり、家の敷地内に比べても多く、主要な遊び場は戸外だったと考えられる。見分けがつか

範囲で戸外の遊び場を分析すると、路上、川・川原と野原、さらに寺社の境内という順になる。そこから、家の周りの路上や辻から、川や野原といった自然のスペース、寺社の境内という社交場的な空間にまで足を伸ばしており、遊び場が広範囲に及んでいたことが分かる。

幼児だけを見ると、43%が家の敷地内での遊び、54%が戸外であった。子ども全体と比較すると、家の敷地内の割合が多い。年齢と共に、遊び場が家の敷地内から戸外へと広がっていくことを示している。路上の他に少数ではあるが、川・川原や野原といった家から離れた空間も確認できる。幼児も年長者に混じって、時には、自然に囲まれた場や多少の危険の伴う場をも貴重な遊びスペースとしていたと思われる。

## ②農漁村民層の子どもたち

全部で52場面と描写数が少ないながらも、路上をはじめ野原、田畑、川、寺社の境内など戸外の至る所で遊ぶ姿が見られたことから、それらを主な遊び空間としていたことが推測できる。町人の子どもたちが3～4割を家の敷地内を遊んでいたのに対し、家の敷地内は15%と低い。尚、家の室内や庭で描かれていたのは幼児が大部分であるため、農漁村の児童に限っては、専ら戸外が遊び場だったと推定できる。

幼児に限定すると、家の敷地内は23%あり、子ども全体より割合は高くなる。戸外の割合が73%と高く、戸外が遊び場の中心だったようである。路上（野道）や田畑、川辺など自然の多い場で、のびのびと遊ぶ様子が絵画史料から確認できる。

## II. 遊び仲間 &lt;表は発表当日に資料として配布&gt;

## ①町人層の子どもたち

子どもの集団遊びが60%を占めており、子ども同士で遊ぶ傾向が多かったことが認められる。特に多かったのは、「男子児童2～4人」の同世代集団で、約30%を占める。同世代・同性の児童でよく徒党を組んで遊んでいたことが分かる。女子児童の同世代集団が少数なのは、単に描写が少なかったからだと考えられる。異世代集団を見ると、「幼児と児童（男女合わせて）」が、全体でも

10%ある。但し、幼児は「味噌っかす」として児童集団に入っている場合が大部分で、面倒を見て遊んでもらっていたことが窺える。また、中学生くらいの年齢の「少年」が、乳幼児をおっている光景が5場面あり、子守の現われともとれる。大人と子どもの遊びは31%であった。特徴としては、「乳児と母」が15場面あり、母（または乳母）と乳児の身体の密着度が非常に高く、母子の愛着形成を感じさせる。また「幼児と母」は38場面あり、全体でも9%の割合を示す。「幼児・児童・母」という組み合わせも24場面あり、母が何らかの形で幼児の遊びに関係している描写は、79場面で全体の19%もあった。幼児同士や幼児と父、祖父母があまり見られなかったことから幼児は児童や母に比較的守られながら遊んでいたことが明らかになった。

#### ②農漁村民層の子どもたち

父母が仕事する傍らでの「幼児の1人遊び」が4場面ある。父母が労働に生活の大部分を費やさなければならぬため、幼児と遊ぶ時間は少なく、やむを得ず傍らで遊ばせておいたことと思われる。「幼児と児童」が遊ぶ場面は27%もあり、親が遊べない分児童に子守りを任せていたと推測できる。但し、母と子の遊びは幾つかみられ、少なくとも母親は子どもの遊び相手として役割を果たしていたことが認められる。子ども同士の集団遊びが50%を占め、町人層と同じく多い。

### III. 遊び道具 <表2参照>

#### ①町人層の子どもたち

169個もの「既製玩具」（独楽、人形、鞠、カルタ、風車、花火、船・馬などの玩具など）が確認でき、全体の28%を占める。江戸の町中で、玩具が商品化された背景

<表1> 近世の子どもの遊び空間

		町人 (%)		農漁村民 (%)	
		全体	幼児	全体	幼児
家内	室内	86 (21.2)	42 (31.8)	5 (9.8)	4 (13.8)
	庭	28 (6.9)	4 (3.0)	3 (5.9)	3 (10.3)
	縁側	11 (2.7)	12 (9.1)	0	0
戸外	野原	19 (4.7)	5 (3.8)	3 (5.9)	1 (3.4)
	川原	20 (4.9)	5 (3.8)	3 (5.9)	2 (6.9)
	路上	39 (9.6)	15 (25.4)	13 (25.5)	4 (13.8)
	寺社	13 (3.2)	4 (3.0)	3 (5.9)	2 (6.9)
	田畑	0	—	5 (9.8)	4 (13.8)
	店	8 (2.0)	5	0	—
	海辺	6 (1.5)	5	1 (2.0)	1 (3.4)
	空地	3 (0.7)	1	0	—
	寺子屋	3 (0.7)	0	0	—
	おそらく戸外	162 (40.0)	34 (25.8)	12 (23.5)	6 (20.7)
その他	8	0	3	2	
不明		18	4	1	1

が窺える。また「放っておくよりも適当な玩具を与えて遊ばせておく方がよい」という親の遊び観・養育観が開始したとも考えられる。「生活道具」（草履・扇子・桶・小箱・紙など）も20%と高い割合を示し、身近にある物を遊び道具として取り入れていたことが分かる。「なし」（追いかっこ・相撲・川遊びなど）も14%と多く、道具がなくとも、肌を触れ合せ活発に遊ぶ姿が見られる。その他、「自然物」（雪や小石など）や「動植物」（草花・犬・猫など）、「手製玩具」（竹馬・貝独楽など）で遊ぶ様子もあった。

幼児に限定すると、「なし」が35%と高く、「這い馬」や「相撲」などをやる様子が目立った。但し、その「なし」の中には、旅芸人の芸を年長者に肩車されて見物したり、児童集団の遊びを傍で見るといった受身的な姿も含まれている。また、「既製玩具」も24%と高く、幼児においても玩具の商品化や親の遊び観・養育観の変化という背景を窺うことができる。その他、小動物に興味を持ち、可愛がったり一緒に遊ぶ場面が目立った。さらには、身近にある「生活道具」を遊び道具にする様子も見られた。

#### ②農漁村民層の子どもたち

「なし」の割合が32%と高く（幼児は36%）、「鬼ごっこ」や「芋虫ころころ」などの玩具を用いない集団遊びが多かった。また、農漁村にも品質は劣るが「既製玩具」（羽子板・凧・風車・でんでん太鼓など）も流入していたようで、20%の割合となった。「手製玩具」（釣り竿や貝独楽）もあり、自分たちでも遊び道具を作り出していた。

幼児に限定すると、描写数は少ないが、子ども全体と同様、「子をとりとろ」と「じゃんけん」などを年長者に混じってしている場面が見られた。また、「既製玩具」（風車など）や「手製の玩具」（竹馬・貝独楽など）を用いたり、「自然物」（木など）や「動植物」（亀・蝶・犬など）も遊びに取り入れていた。

<表2> 近世の子どもの遊び道具

	町人 (%)		農漁村民 (%)	
	全体	幼児	全体	幼児
既製玩具	169 (28.2)	38 (23.6)	12 (20.3)	4 (12.1)
手製玩具	43 (7.2)	6 (3.7)	8 (13.6)	4 (12.1)
自然物	62 (10.3)	8 (5.0)	3 (5.0)	2 (6.1)
動植物	58 (9.7)	23 (14.3)	5 (8.5)	4 (12.1)
生活道具	124 (20.7)	15 (9.3)	8 (13.6)	3 (9.1)
児童芸術	8 (1.3)	2 (1.2)	0	—
祭具	46 (7.7)	11 (6.8)	1 (1.7)	1 (3.0)
食物	6 (1.8)	1 (0.6)	3 (5.0)	3 (9.1)
なし	84 (14.0)	57 (35.4)	19 (32.2)	12 (36.4)